春色連理梅(しゆんしよくれんりのうめ)巻之十五

第廿九齣

江戸　梅暮里谷峩作

凶(きやう)は吉(きち)に復(ふく)するといへ。易者(えきしや)判断(はんだん)夢(ゆめ)の占(うらなひ)をすべて憂(うれ)ひるしゆゑば。後(あと)よろこびのゆるも結(むす)にて。眉間(みけん)段(だん)々塞翁(さいをう)が。うまれ相続(さうぞく)に成(なり)てゆり。彼(かの)遺(ゆい)言(ごん)に儀(ぎ)をへて。お梅(うめ)親子(おやこ)が喜(よろこ)び悦(よろこ)ぶらんせんと思(おも)ふところへ地(ち)ぬしの下女(げぢよ)が門口(かどぐち)より〽お梅(うめ)さん旦那(だんな)

さまが一寸（ちよつと）お出（いで）な成（さい）ましと梯へハイかけてる頭へコウ己（おいら）アそふく延引（えんいん）しちやアならねへせ是（これ）から文使（きさく）がけふ万圓院（ぜんいうじん）店（だな）から菊川町（きくかはまち）の前（まへ）を五六軒（げん）夜（よう）さくなけりやアおらア行くからカア戻（もど）し歩（あゆび）おらへモンお女中（ぢよちう）へ此娘（このこ）ハあまり私（わたし）が引（ひき）とりやしてうらう子どふも寒（や）うらきやせん（下女へうかいききかひ小かきれてさやもなし）まへ左様（さやう）でもおざゐねませくぐよ地主（ぢぬし）さまからのお人でおざゐまするか某様（なにかる）の方（かた）へお連（つれ）なされましたから程（ほど）のて一寸（ちよつと）お出と

まづ部屋(へや)へまゐりまして撫切(なでぎり)手間(てま)もとらせませんから

何卒(なにとぞ)ちよつとお待(まち)かねて下(くだ)さりまし　ト　いひすてて　源六(げんろく)は　さつさといでゆく

（とてもせねばならぬにたまりてあちこち　お秋へ近所の下女と源七田之助のもとへ行）

由(よし)へ　お梅女(あやめ)いま門口(かどぐち)で

今(いま)しも立聞(たちぎゝ)しこがれん　ある事(こと)を先(さき)に何殺(なにせ)

お流(きえん)をうけて因縁(いんえん)のござ所(ところ)も間際(まぎは)ふさし

かくゆゑに仕官(しくわん)がならぬとはいへども　まゝ地頭(ちかう)に意(と)も

角(かく)も御会(ゑへ)せずとてなほさらも落膽(らくたん)の不精米(かりまめ)

げにも何家(とこう)へ弥(いや)けて金(きん)を借(か)り渉(わたり)してやきろうせし　あらも

つく[illegible]りの絵へ[illegible]て見えば生[illegible]しどう
して[illegible]と[illegible]ふ[illegible]ておる[illegible]へまか[illegible]び[illegible]
恰よくか[illegible]がおる[illegible]りて[illegible]来く[illegible]
なかしかれ[illegible]の[illegible]の寄進(きしん)の金を[illegible]
て[illegible]ところがお[illegible]
でお[illegible]り[illegible]く[illegible]さんねも[illegible]
[illegible]て[illegible]く[illegible]て[illegible]て[illegible]とし[illegible]
[illegible]へ[illegible]親子(おやこ)の[illegible]として[illegible]

借養（やく）の金（かね）のうちより元利（ぐわんり）を十一両（りやう）三分（ぶ）二朱（しゆ）かし

てさし置（おく）く難渋（なんじう）を救（すく）ひ人（ひと）ひとりとしくなくが[illegible]（ちやく）

あ人（さう）を助（たす）けて家（や）とも下（くださ）れとし[illegible]（と）も徳（とく）もなし

てそもぶけの金（かね）を調（とゝの）へまゐらせしかるに利（り）さ

くら是（これ）を救（すく）ひ[illegible]（らい）財（ざい）をして志まひ[illegible]へ

みんなが情（じやう）さく者（もの）借（かし）て者（もの）ぞといひつて[illegible]（かんま）り

面（つら）憎（にく）い奴（やつ）ぢやな悪（あく）して志まや恩（おん）をもひらも

[illegible]へこの金（かね）を彼奴（あいつ）の横面（よこつら）へ叩（たゝ）き付（つけ）て遣（や）るがよい

いゑんつましは畜生までなをはひたすら。命をさし
出し男結縁切骨がらんはやら婚しはやら。後音の毒は
山に分ちよ。罪逸はされぬ悪場の命その手を離き
互くへり。手のよしを父に告ん。号六ふさいはさうら号六
あてうち驕るき。念に相違はあつてゐても。元利そろへて
一文の。不足もなくて天際に一言半句の不足もなく。
まづく呪文をとり出して。印形をきりぬき。父親
に遇し。あがりて縁へやれし思ひを遂げ命を請とりて理

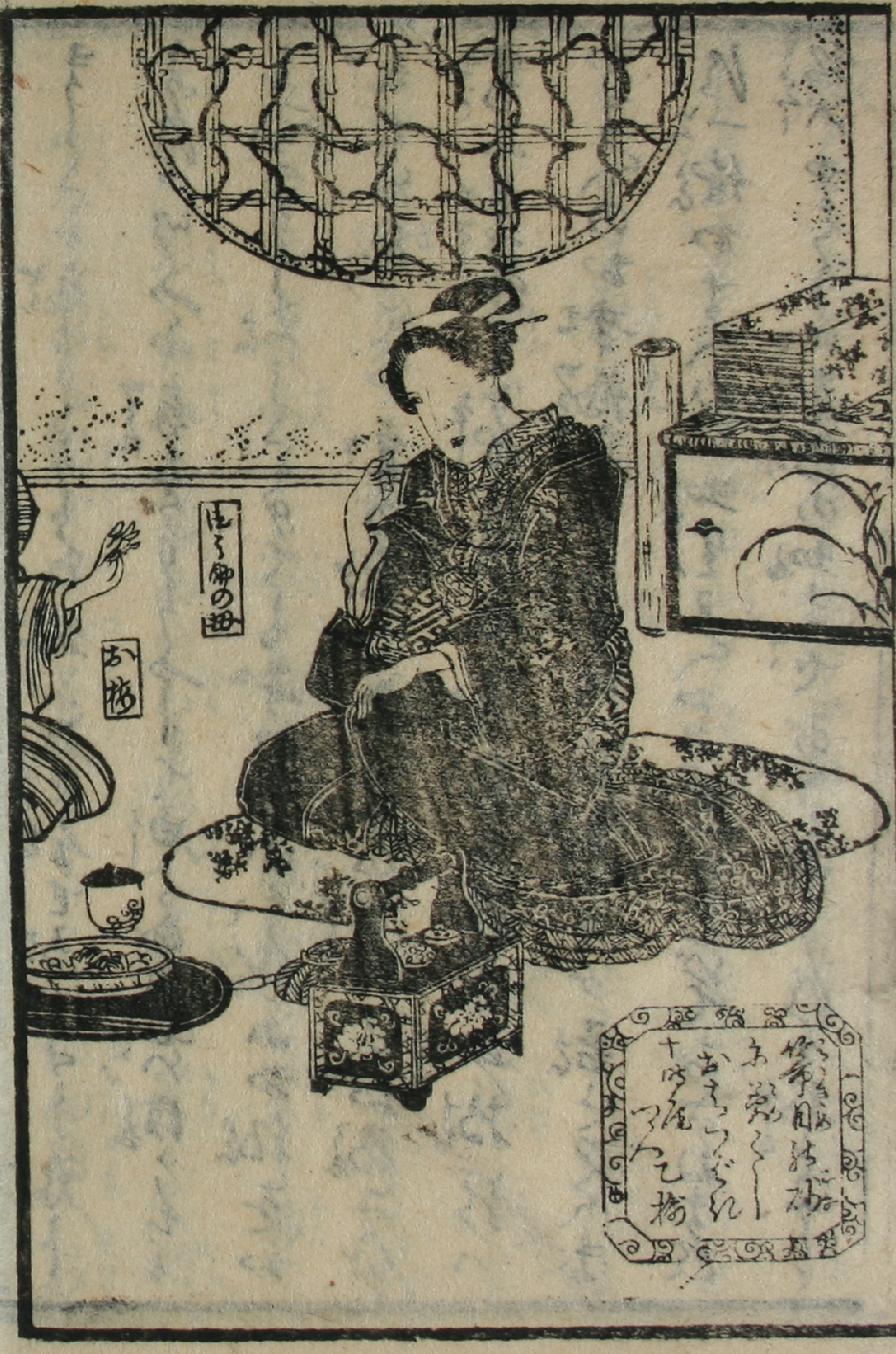
かくへども是(これ)ぞかの快楽(かいらく)ごとて人(ひと)に見る狸細工(ざいく)をして悪口(ぐち)をきゝ家(いゑ)も蔵(くら)へが見当(けんとう)ちがひして素世下(せさげ)をどこへ出(で)ても金(かね)ゆへ是(これ)が銘(めい)でもふるい川柳(せんりう)が借金(しやくきん)の穴(あな)を娘(むすめ)の穴(あな)で埋(うめ)るといふ句(く)よみしは道(どう)まく鏡(きやうづろ)の切(きり)ぬけよりも娘(むすめ)は急所(きうしよう)がまたけるさへしばしまゝ何(なに)しても かッ何ア安心(あんしん)ぞの娘の汁(しる)が吸(す)へるから蟹(くわい)をきるふみも及(およ)ぶ気(き)なし胸算用(むなざんよう)が違(ちが)ふてくる。乾鳥(ごろちやら)まぎれもの悪魔(あくま)口(くち)。悪(くわ)く娘(け)さへ(そ)出(で)来(き)てをかき(き)流(なが)しふして

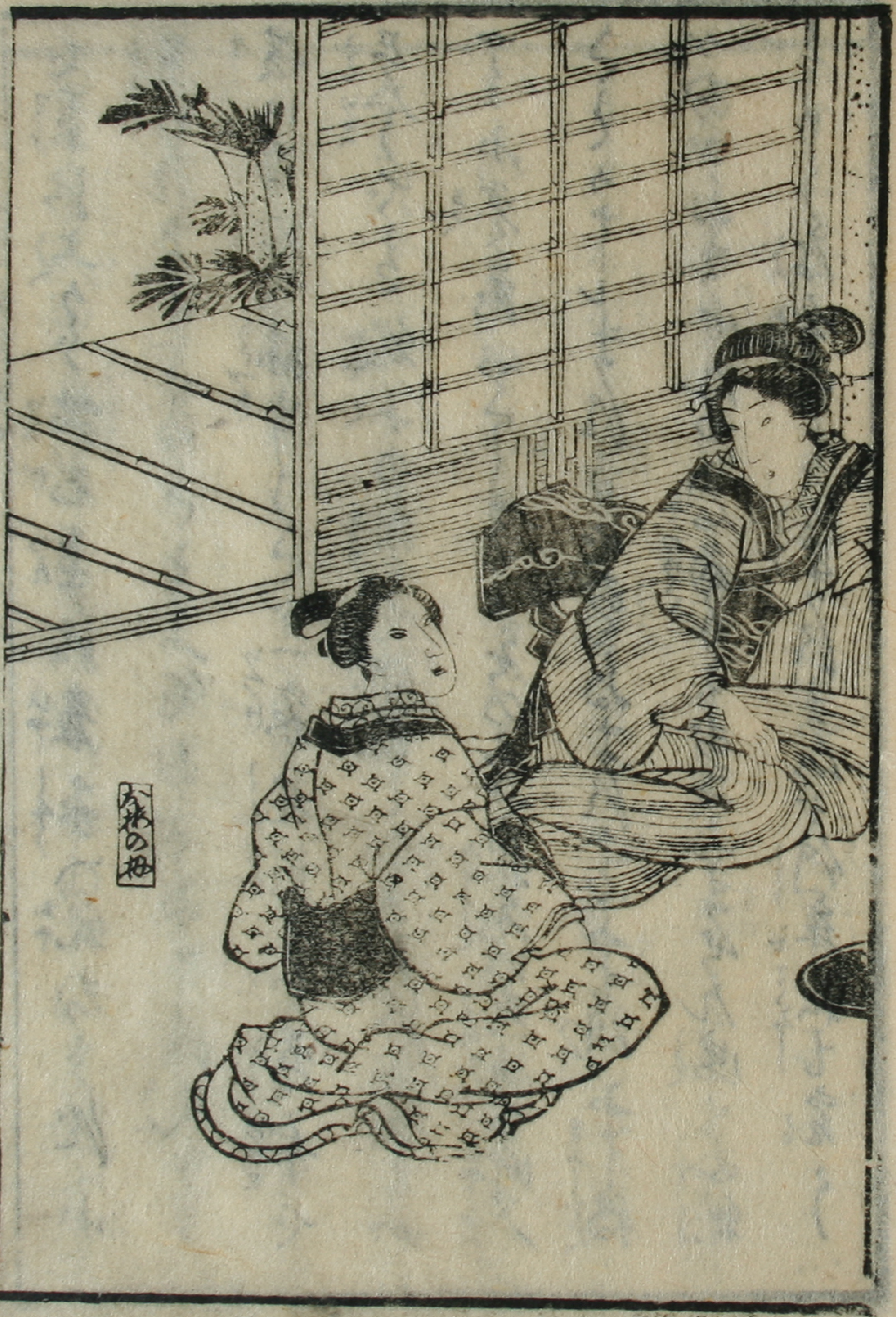
ゑくらね。お前親子は由ある中の恩義を深く感じ給ひ。まづ何をさし措ても。お礼に参り直ては。返納の運び方を申上て。重子ばあからぬし。母親の老鶯やがて由ある中と其母子も会嬉し涙をこぼしつゝ。猶むぞうり礼を述て。向いぎ楽の弟のゝくおもし「私は運の悪いくし中スもれ幸まるお笑のもどしてくくそれまでお前がまづて知雅うちより支小者く死ぬ迄ましとゆへ拠なく娘を連て男子ひとりある家へ

再縁(さいゑん)に参(まい)りましてお梅(うめ)を先(さき)の子(こ)の嫁(よめ)にしまして面倒(めんどう)な勝手(かつて)を獨(ひと)りで苦勞(くろう)しましたも近年(ちかごろ)その夫(おつと)も病死(びやうし)致(いた)しまして跡(あと)へ參(まゐ)りまして息子(むすこ)どのが箸(はし)にも棒(ぼう)にも掛(かゝ)りませぬ放埒(はうらつ)な[illegible]ゆへふとなく[illegible]私(わたくし)[illegible]稼(かせ)ぐ銭(ぜに)を[illegible]あくれど[illegible]らうま[illegible]女郎(ぢよらう)に馴(なじ)みまして[illegible]内(ない)へ[illegible]まして[illegible]義理(ぎり)のある伜(せがれ)でござりまする[illegible]捨(すて)て置(おき)まして、世間(せけん)へ對(たい)しても濟(すみ)ませんゆへ娵(よめ)を引(ひき)

嘔(わて)と申ハてろく異(い)ありてぐおぼゑありしまでと先方(せんぽう)は
申すなり也 遍体(へんさい)の滞(とど)こほりぬ上(じやう)くハ お物(もの)を嫌(きらつ)て ふるへさ
まてと申す腫文(しゆきん)をさし入(いれ)まして 隅(ぐう)どのより 嘔気(へうくけ)ま
しくそ待 食(しよく)少(すく)なく 胸中(でろくゐ)より 脾(せん)をも 分(ぶかん)で 引(ひき)よりま
去(さ)るくが 間(ま)もなく 鼻病(てびやう)を 煩(わづら)ひまして 亡(なく)なりしよし
去年(きうねん)の冬よりその前(まへ)より 私(ところ)が 長(なが)く目の 眼病(がんびやう)にて 心(こゝろ)悪(あ)し 那(うち)に
夜(まり)すがら 心(こゝろ)へ 左(さ)様(やう)に 先度(せんど)の ある(おく)入 多分(ぞうぶん)に 客(き)て 波(ぐく)
し 分(わ)かなく 家(うち)も 道具(だうぐ)も 他人(ひとで)へ 貸(か)して は 出(でかん)面(こち)内へ 参(まゐり)

まへさが善(ぜん)じもおかしね親(おや)子の仕合(しあはせ)をかへりみ悪(ぜん)ト さうなれどわくへに縁(ゆかり)をりうやうして由ミ由の無い膝(ひざ)へしもつろ こへ十二りう歳(さい)しくらのでも家(か)内のふ存(そん)分におれ礼(れい)をお云(いふ)でハ却(かへつ)てお気(き)の毒(どく)でござんすハ聞(きけ)バアノお梅(うめ)さんが 寔(まこと)に優(やさ)しく志(こゝろざし)のある孝(かう〳〵)行な息子(むすこ)をお持(もち)なされ おまへのお幸(しあはせ)と申すもお爾(そゞろ)がらが云(いふ)とらへてま ほ一体(いつたい)おまへのお出生(うまれ)ハお梅の姉へさまべておござねまへ 私(わたくし)ハ申さうりハ台所(だいどころ)の出生でおござねうはが承(そくし)てゐやう


風ろ御の母
お梅
ごさめ筆自結ぶ
ゑ葉くし
おもひつゞれ
十時庵
つ人乙梅


大林の梅

で[illegible]から田舎（ゐなか）下（げ）辺（へん）の農家（ひやくしやう）へ親（おや）元（もと）から[illegible]
生（うま）れまして のござりそうで おざりますれ是（これ）から
後（のち）に因（まくだ）[illegible]へ嫁（よめづき）ましたが一家（いつけ）親類（しんるい）どもが不幸（ふしあはせ）命で
只今（たゞいま）では親子（おやこ）の中（なか）に縁者（ゑんじや）と申すも誰もなくか
やうに零落（れい）いたしまして その日（ひ）親元（おやもと）は直流（てうゑ）に断（たえ）人
ごとくやーまするので おざりますがどうも別（べつ）に心得（まゐりかね）
がおざりませんゆへ心得（こゝろがけ）もおざりません速（そく）も有親（うちしく）
そのまゝ存命（ぞんめい）でおります在（ざい）宿（きう）まんのが何年（どうぞこゝろ）私も宿（も）う

四十三でござりますがくらせんくなけ浮(ぜんしやうりんく)に兄(けう)ぶに
ありと名告(なのり)かひお梅(うめ)がめくされを好(この)みくひく段(だん)し
ましてん真言(しんごん)宗を頼(け)く宗(そう)まで家(まく)に参(まゐ)るまでござり
ますから諸(そそ)も願(ねが)ひいたしましてゆきとゞきまして
宗(そう)まで（母かたの）祖(そ)へ生でござります吾備(ろくし)と同年(おないどし)ごが何(なん)にしても
ん細(こまかに)の方(こ)のとゞく(く)へ縁付(えんづく)の方生(うまれ)エ（かり柄の母）へエアイ乙の(うぶぎ)
一昨年(おとゝし)二月十日の出生(しゆつしやう)にて臍帯(へそのを)に巻付(まきつけ)てござりますれ
のが実父(じつふ)の手跡(しゆせき)でちあ小ござりますそれに家(どう)

やしき剣判が押(おし)ておかざりまよへもて後へ下由らるの毋親(ちゝおや)を思(おも)ひゐり舞(げ)に緒顔(おやい)まのりよれり。其後(そのご)の包(つゝみ)を包を出(いだ)して。見きるを看(み)ろば乙亥年(きのとのゐどし)。二月十日出生(しゆつしやう)女子(にようし)とかりお祢の毋へ見せ(そえ)へのゐるをお手風(てふう)しるをて端(かつこう)しく。るが家(や)へもどりて實家(でから)よくり。衣帯包(つゝみ)を拿(とう)出し。急忙(いそが)しく将来(まくきく)の。是彼(これかれ)とも不同(ひら)なれんるに。まづよそてみき同氣(どうひつ)にて。同じ年月を記しある。其表包(そのうへづゝみ)をひらげ見れば。裡(うち)に押ある印形(いんぎやう)の。字も家号も違(さが)ふてなし。亦出一封(まくだいいつぷう)の割印(わりいん)

我しておもへば男の作る印章。一面一紙孫の姉妹中の母へそへん
ありしもまゝにて孫の娘お梅の母へゆかりある姉さん由を母の妹へ文
聞えんとせり両人へ逢ひすゝしてかの下思を深く縁に立て喜びて。
嬉しく涙を拭ひける。傍聴せし兄妹娘。お松も共に聞しき母
奇遇を見驚き且歓び。お梅を縁でよしみを継げば。
是いかしとだろり悦び勇み。舅兄姑嫂に至るまで。そこ
祝ひごゝろありて。やがて饗に酒肴を調へ姉妹。嫂。甥。婿。
従弟の。盃を巡らして。一家のよしみをつくしける。扨

由ある御方が親の父母は早く沒りて。當時兄が家督なれば。稚く兄中も名のり合せ。きつと奉りしを背く。何とよしなふ付ふべし。とか猶親子を離れつつ。お松その部の後も門違ひれ。おきく庵二郎を信の仰りね

○孫は老にまで何ほども。生るるとも。それは甚を恨しを孫とし俺てなく人がり。是までも親に婦幼も鳴く。焼野の雉子。双兒之先へ生れて母へしき。大雁と呼し。後に生れしを小雁と呼ば小雁は是

号なりて。男に長ぜしめて政（まつりごと）をとらしむ。素（?）貞（?）
天智（てんち）年中（?）切（せつ）を差し（?）免し後（のち）。神（?）慈（?）
天皇と諡（おくりな）せられたまへり。きるさの帝（ていわう?）のおんまごと
なり。漢土（もろこし）にても。陰生（?）紀申（きしん）に男（おとこ）の孫（まご）あり。許（きよ）の聲荘（?）
に女の孫あり。漢（かん）の霍（くわく）将軍（しやうぐん）に男の孫あり。蘇（そ）の君夫（くんぷ）
唐勤（?）は男女（なんによ）共に孫あり。各（おのおの）家を継（つ）ぎて王侯（わうこう）
才良（ざいりやう）なり其の宅（たく）和漢（わかん）に聞（きこ）えしものは。栄楽（えいらく）なるに
子孫（しそん）代々（だいだい）孫（まご）を伝（でん）へ家（け）多（おほ）く一族（いちぞく）中にて

二子(ふたご)を得(う)る。是(これ)将(まさ)に天(てん)よりして。陽気(やうき)を授(さづけ)しものなるべし

第三十齣

菊(きく)や今朝(けさ)見えつゝちらの岸(きし)に咲(さく)。花の色香(いろか)は都(みやこ)も秋どれも定(さだめ)ぬ世(よ)の人(ひと)膚(はだ)と。獅(しゝ)に温(あたゝ)め無(む)の心(こゝろ)に。纏(まと)はるゝお菊(きく)は始めのおもひきみのふ衣(きぬ)寢(ね)より醒(さめ)て起(き)て。うち驚(おどろ)かせてまくゝゆへまづ病(びやう)も重(おも)くて食事(しよくじ)のもせざれば。母(はゝ)はゆゑんじく胸(むね)安(やす)からず湯薬(やくとう)を煎(せん)じて枕(まくら)の邊(ほとり)へおき。母へサア。お菊(きく)お薬(くすり)ができてヨ。どうぞ/\少(すこ)しハ情(こゝろ)のきく/\ハイ孝(かう)ぐすりナニ

ナニさ病気(びやうき)でもありますまいが手習(てならひ)におかしくなつてかね

おまへさんが始(はじ)めでもちなさいましてお菓子(かし)をくれてゐるヨ母「十二三はおかう

お孫(まご)様(さま)がおまへは病(やまい)さんのやうにお世話(せわ)になりて見る心(こころ)

どうぞ病気(びやうき)が出(で)ましては其(その)ものが病(やまい)に障(さは)つてどうもならぬ

それはもう察(さつ)してゐるのでござんすが何(なん)でも気(き)は悪(わる)く

悪(わる)くなつて損(そん)がゆくよトいひきかせてむすこに（ギツクリおやそれはききおぼえ）男「ハイおかみさんにも宜(よろ)しくト

（ぞろぞろ入らるれましやんゆ）母「ヨヤ若衆(わかしゆ)は先日(せんじつ)お檀那(だんな)さ由「イヤそれはそれは

つらく おか母「みなそれぞれ楽(たの)しみがあるさヨヤおきくさん

は寝（ね）てゐる〳〵 如「ハイ言（こと）葉（ば）へゆるして何（なに）も起請（きしやうもん）から親（おや）
言（げん）語（ご）道（だう）断（だん）ましてねト（起ゆるしたまはれまして中々きゝわけもなく）「アレ此母（おつか）さん
それ見（み）やへ心得（こゝろえ）ねばいはん自然（じねん）じやヨ 母「ヲヤそうでハ苦労（くらう）
その内連中（れんぢう）由「いゝえおきくさんまでハ母（おつか）さんに何（なん）にも
苦労（くらう）をせうぞへ きく「イヽ又 由「それじやアノぞんじあるい
さんざんト（きのどくをかけまいとくやしいのでおもひきめなさる）（おいきなくきをもむりつめしておる）由「さう様（さう）いふけれど
みんなおきくさんが癪（しやく）を起（おこ）してそれも気病（きやみ）でおきるのを
継（まゝ）しい子おきくさんお前（まへ）何（なん）と思（おも）ひなさるへ が

奥さんのきのふの口上いふを[illegible]らしい[illegible]
しやア[illegible]くが[illegible]が[illegible]をして居るのも[illegible]
[illegible]くがよし奥さんがそれを[illegible]て[illegible]
[illegible]づらしを[illegible]て[illegible]
[illegible]を[illegible]さとしくて[illegible]らるるくどとの[illegible]の[illegible]
[illegible]が[illegible]て[illegible]達に[illegible]自由いさ[illegible]
[illegible]しておか[illegible]の了簡といふものは ト[illegible]
[illegible]ぶん[illegible]しきことをきく それまでいくどいくども私やア[illegible]くでならぬ

ませんでハありません母「娘ニ孝（かう）がくハ兼（かね）しやしてござりね
ます孫が延（えん）引にお孝養（かうやう）さんにお仏前（ごしんぷ）を拝み申（まう）しては家心（ごくしん）に
どうも済（すみ）ませんがへきで「光苦労（りやうがく）の御（ご）慮しやしても死（しん）でも
気遣（きづかひ）ハ致（いた）しませんまでどうぞ縁（えん）しうおたのみまをがどうぞ
然（しか）しながらお嬢（じやう）さまへ対（たい）して寡（ご）さんもおそらう切（きれ）て去ります
せんでハ私（わたくし）の義理（ぎり）が立（たち）ませんどうぞ由「才二「然（さう）させる
らもおうへおまへハ縁者（えんじや）に心配（しんぱい）をさせるも此の家きく「それでも
どうかおらんじんの旦那（だんな）様が見え出（で）させうもござりませんハ由「

全(まつた)く荒来(おあいら)様(ざま)よく利(り)口(こう)容(かたち)を解(とい)て来(き)やうが徳志

たしなんく背(そむ)き扱(これ)扱る中(ちうらん)ふ歎(なみ)くゝ足(あし)へ行(ゆき)ゝ。析(あつ)りゝ慌(あはたゞ)

しく入(いつ)來(く)る女由(おんなよし)と顔見合(かほみあは)せ女「ヲヤ米吉(よねきち)さん由「

是(こゝ)は房(ふさ)さんの妻(つま)ウト（いひさしておもひがけざれば双方の　自分ながらもしまひかねつゝありけり）きく「お米(よね)さん

若旦那(わかだんな)も私(わたし)どもの事を御存(ごぞん)じでいろ〳〵と御心配(ごしんぱい)

構(かまう)てくださる中(うち)ぐらしも難儀(なんぎ)をしないで暮(くら)しても宜(よい)ヨ

米「ヲヤ夫(さう)れでおざゐますかへそれで安心(あんしん)致(いた)しまして

私(こゝ)しやアめうとの後(のち)をかくし案(あん)じましたヨ由「りゝかんざ

口上(こうじやう)あふらまれど云役(いやく)人〽ハイア只今(たゞいま)鶴屋(つるや)ゟ
かくりがけに御新造(ごしんぞ)さまと（由きゝ御のおかみさん出てくる一所に　めでたしよ）
お立(たち)よりがおござりまして家内(かない)一同(どう)気(き)ふ是(これ)を流浪(るろう)先
ら承(うけたまは)りまして早急(さうきゆう)に屋(や)け(ゑ)て是(これ)と申(まう)し仰付(おほせつけ)ておたのみなさん
ましてござります早速(さつそく)持(もつ)て参(さん)じましてト何(なに)やらしたゝめし書付(かきつけ)を出(だ)し（おきくへうけとりよみくだして）
〽どれ〳〵（くどめて志んじまつり　これ〳〵おかみさん）由〽ド何(なに)が出(で)てよいしく（トあふとりてよみかへし半ばくりかへしよろしそうにうなづく）

きのふからひきよせ見すじ段(だん)

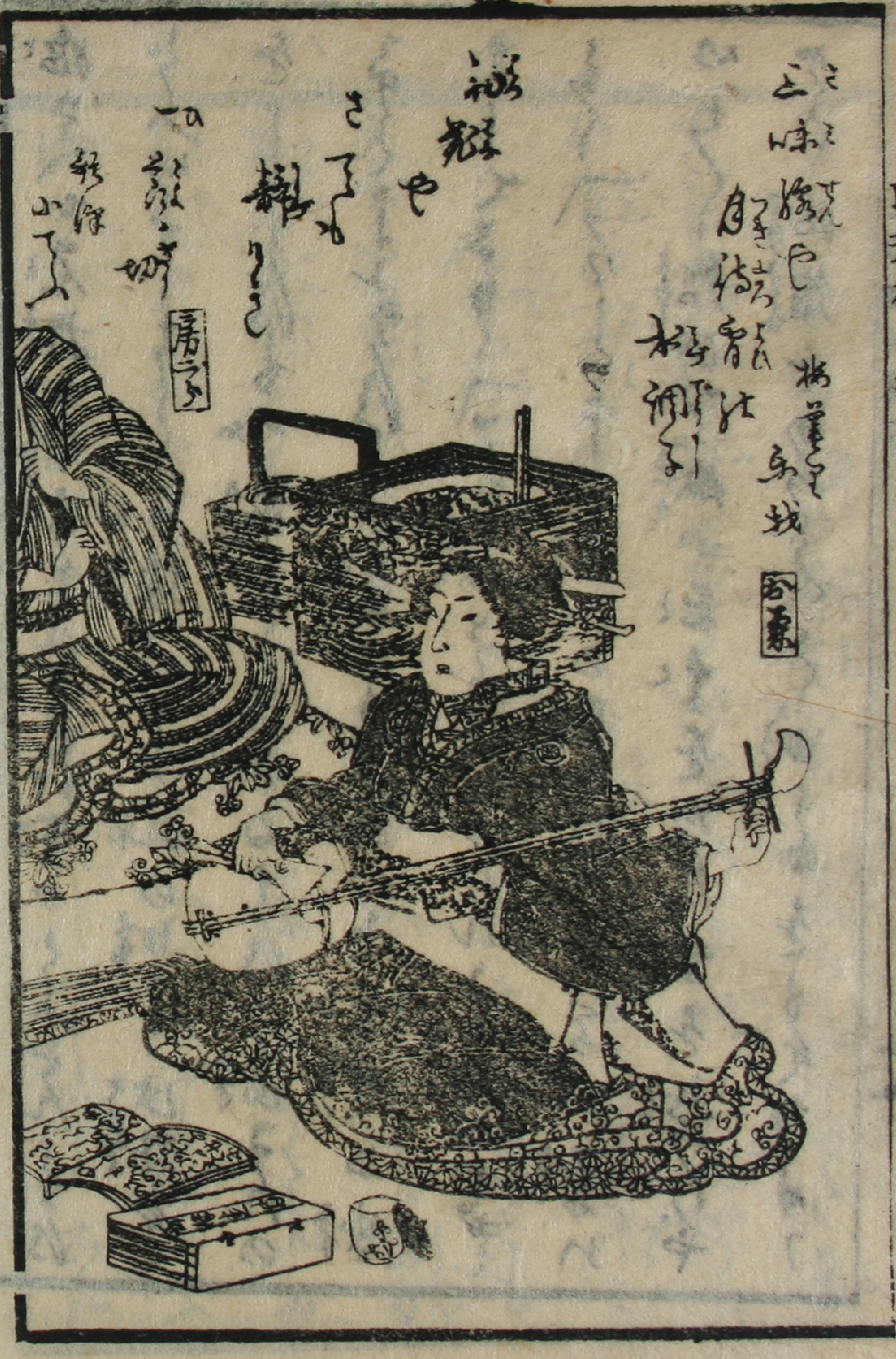
志ごく嬉(うれ)しく狂言(きやうげん)時代(じだい)の市川と
中いぢらしき女が書(かき)置(おき)しておく也
夫(それ)を志らせうつしもあらばよんどころなく
あつかひもなき和睦(わぼく)ずつうし息(そく)殺(ころ)ろ
お喜(きん)ぐろうかが嫁(これ)思(お)ふしておくれつよ様(その)の
うもり是(これ)が幸(さいは)ひの種(たね)に家内(かない)中(ぢう)あつゐ
が中よく成るを見(み)て喜(よろこ)ひ給(たま)ふ事
はしもとゝゆしをとんと擲(いく)しいれ入(いり)ます
いま
く

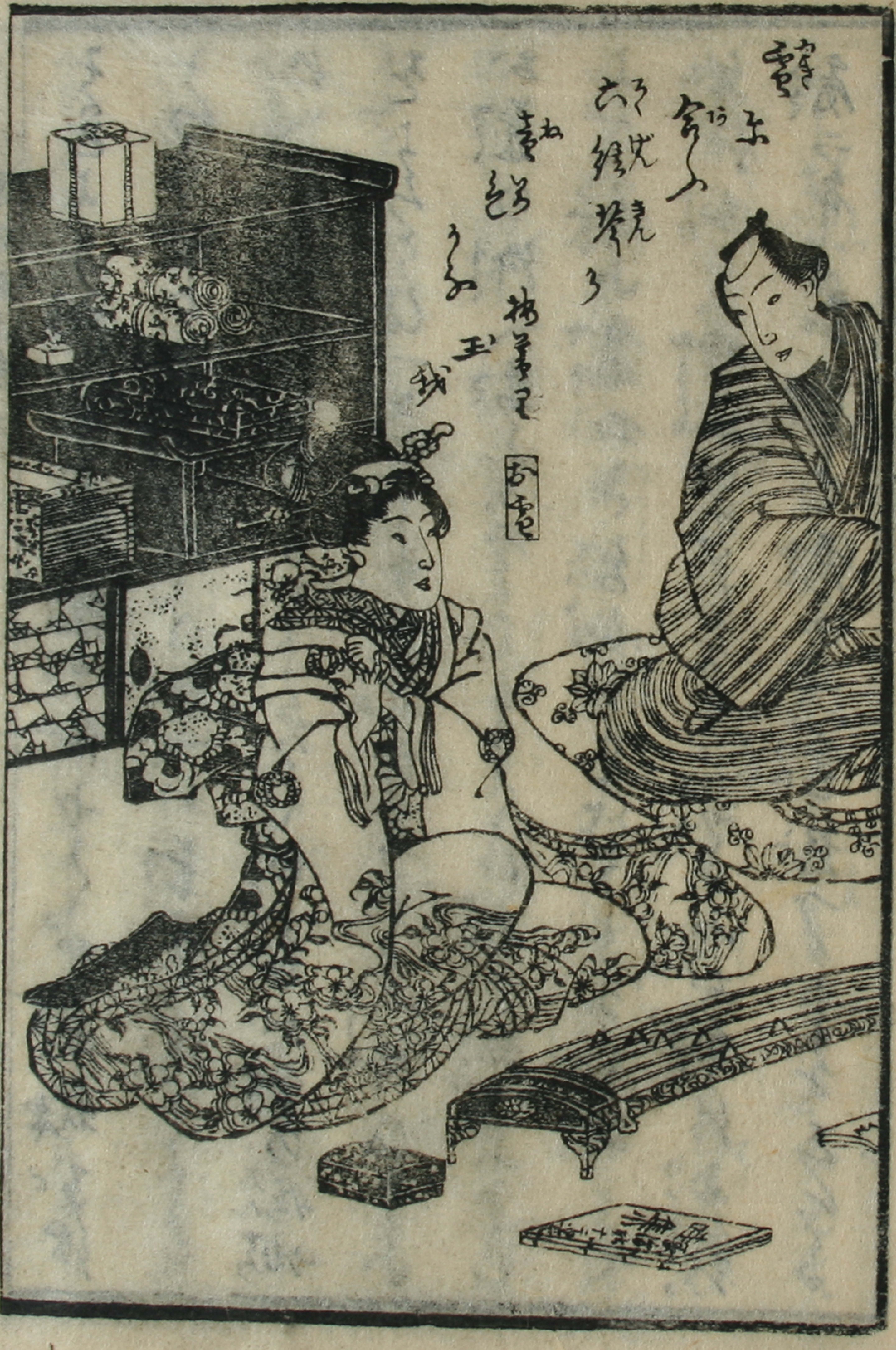
由＼ソラどふぞ己（おのれ）の運（うん）定（てい）どふり毫（ちつと）も違（ちが）ひなく是（これ）迄（まで）こそ世帯（せたい）甲斐（かい）がゆるとんかなさる何（かふ）しろ近（ちか）ゐうちもお雪（ゆき）と一所（いつしよ）に連（つれ）て来（く）るからは毛頭（もうとう）も悪（わる）かろふが仲（なか）よくして遣（や）つて呉（くん）な。孫へ御母（おつか）さんおきくさんもどふとも末まんが時（とき）よ所帯（しよたい）くゆきつらえて此（この）まゞくでます當分（とうぶん）房の面倒（めんどう）をよく見（み）てお呉（くん）ら旅（なさく）ともかくも頼ふ自由（しゆう）なるすれおさせ申ません母＼イヱもう〳〵致（いたさ）しまして[illegible]致（いた）しまして[illegible]

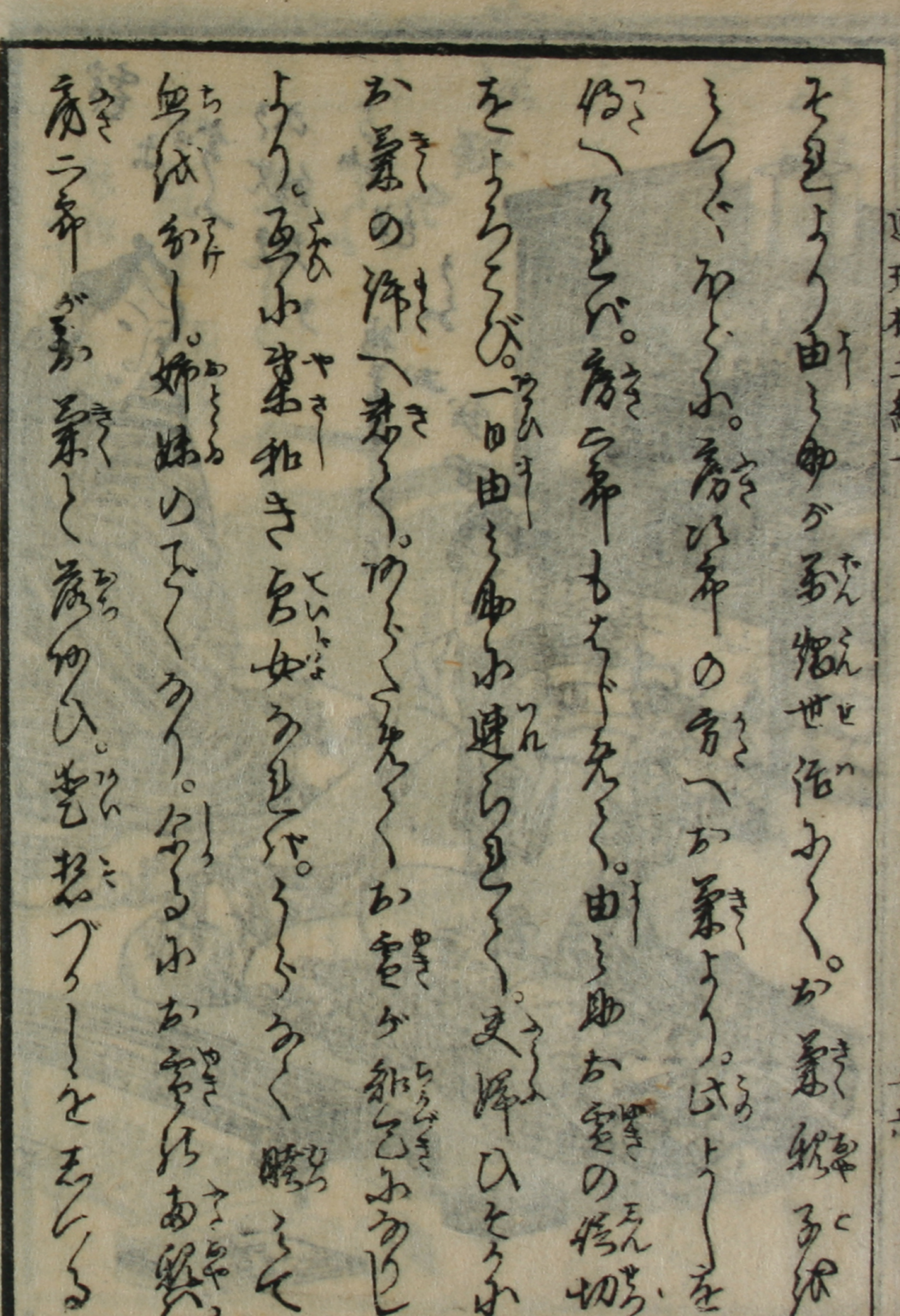
譬(たと)へお見(み)捨(すて)遊(あそ)ばされませんのさへ有(あり)がたふござんすのに
どふぞいしてましても此縁(ゑん)が中ら親(おや)の許(ゆる)しも武極(ごくい)
をやしまするも可(お)笑(み)しうござんすれども主(ぬし)さんの
なまじい中ましまゝとお菊(きく)がもうしつて夢(む)中(ちう)に楽(らう)
ましてなきく「アレ四郎(らう)さんはそうげんにならし(まし)がねむ
たく「アワヽヽヲホヽヽ憂(うれ)ひの眉(まゆ)をひらきける。お菊(きく)は
はやく飯(まゝ)びつ。鐵(てつ)に徳(とく)利(り)をかけ。鍋(なべ)を掛のけさや
がく酒肴(さけさかな)をかのつぐらく由(よし)を命(めい)じてかへり

三味線（さみせん）に
月待顔（つきまちがほ）の
女習子（めならひこ）
梅葉亭
糸栈
谷栗

袖鏡
や
さてぬ
静りし
一ひ
こと二番切
新保小てふ
房二ろ




寶に
家へ
六絃琴の
音色
うれ
梅草亭
玉我
玉雪



それより由之助が勘當世話なく。お菊親子はミつぐかぐふ。房次郎の方へお菊より。文よこしを待へ[illegible]しび。房二郎もちどもえらく。由之助お雪の[illegible]切をよろこび。一日由之助に連られて。支澤ひそかにお菊の許へ来く。何くれとなくお雪が[illegible]気になりし。より。互に心和しき貞女なれバ。ふかく睦ミて無[illegible]わし。姉妹のごとくなり。然るにお雪は[illegible]房二郎がお菊と密通ひ。[illegible]づらしをさしる

よし。お松(まつ)より独(ひとり)に先(さき)だちて其(その)娘(ひとり)を託(たく)しておきて

も。安心(あんしん)なりしと悦(よろこ)びけりしが。是(これ)など由(よし)を願(ねが)ふ計(はから)ひ

ふて。お雪(ゆき)お菊(きく)と和合(わがう)に暮(くら)しよしを喜(き)見(み)えてゞ嫁(こ)

の志(こゝろざし)を感(かん)じ。又(また)お菊(きく)夫(そ)も憐(あはれ)みに思(おも)ひ彦(ひこ)二郎に家督(かとく)相続(さうぞく)

させて。お雪(ゆき)を嫁(よめ)に取(と)りしかどに則(すなはち)お雪(ゆき)の親(おや)ひとへ。

お菊(きく)親娘(おやこ)を引(ひき)とり後見(うしろみ)ぞおれば親子(おや)にいとしく彦(ひこ)二郎

の悦(よろこ)び。両(りやう)親(おや)の安心(あんしん)。孝行(かう/\きやう/\)叶(かな)ひけん家(か)内(ない)むつまじく。家(いへ)に

まつくお松(まつ)親子(おやこ)が。漸(やう)やく血統(ちすぢ)なるよし志(こゝろざ)しなりし

より。お梅と由三郎が由縁ある事の發りはかくのごとし
いくまだ由三郎の両親お梅の孝志を感じて息子と和
かるを。深く感じて嫁に迎へ由三郎に家督を
譲りて。お梅の母をも引とりしが。其身は隠居の別
荘に隠居して静かに老後を楽しみたり。扨両家別家
とも。雑苦なく芽出度栄るばかり房二郎が方の支配人
與八が年来の。忠勤を賞して。長く召使ひ
猶又れば。同年おりし高利貸の。徳兵衛が代

に放埒(ほうらつ)を縦(ほしいまゝ)にしては。益(ます〳〵)利(り)を貪(むさぼ)ること。
慙(ざん)にも恥(はぢ)ず。驕奢(けうしや)淫欲(いんよく)にして。無筆(むひつ)を侍(じ)らし。淫(いん)に耽(ふけ)
人をも陵辱(りようじよく)を犯(をか)して。忿怒(ふんど)にめし。輙(すなは)ち首(くび)を刎(は)ね
らしむきを官家(おんかけ)の御怒(どひ)を蒙(かうむ)りて。遠流(ゑんる)に處(しよ)せられ
たるが。さるなかに忠義(ちうぎ)の婢女(おんな)。お松(まつ)。お君(きみ)。年頃(としごろ)。觀(くわん)
念(ねん)なくなりければ。縫箔(ぬいはく)の隠居(いんきよ)が指揮(さしづ)にて。後家(ごけ)
の宅(たく)へ文(ぶん)を旅人(たびびと)の。番妻(たのつま)にせよと。遺腹(ゆいふく)の子(こ)
なくなりて。お菊(きく)へ家(いへ)に女(むすめ)ありしかども。お梅(むめ)の男子(おとこのこ)を産(うむ)。

松本

お竈ハ女子を疎しゞ。何ぞも親子兄弟にく血筋も多くは日頃ハ家内よく和合して。商家ますく繁昌して。栄へゆくこそ豊なれ。めでたし〳〵

銀亭　梅暮里王　戯按

釣亭　梅暮里樂　戯正

春色連理の梅第二十五　大尾

5000

神[illegible]元町二丁目
BOOK
書籍